

日本人10人、学びの支援

在日コリアンの生徒約270人が学ぶ愛知朝鮮中高級学校（愛知県豊明市）の教壇に21日、10人の日本人が立つ。「高校無償化」から除外された同校を支援する市民団体が「授業で応援を」と呼び掛けたところ、日本の大学や高校の教員、弁護士らが応じた。

21日、大学教員らが公開授業



高校無償化と朝鮮学校

無償化は2010年度に始まったが、朝鮮学校は見送られた。当時の民主党政権は「外交問題は絡めず、授業時間数などの客観的な条件で判断すること」の基準を設け審査したが、北朝鮮による韓国・大延坪島（テヨンピョンド）砲撃を受け凍結。自民党への政権交代後も「拉致問題に進展がない」などの理由で除外された。愛知朝鮮中高級学校の卒業生らは13年1月、「法の下での平等を定めた憲法に違反する」として、国家賠償を求める訴訟を名古屋地裁で起こした。

学校を運営する愛知朝鮮学園によると、一度に10人の日本人が同校で教えるのは初めてという。

企画したのは日本人と在日でつくる「朝鮮高校にも差別なく無償化適用を求めるネットワーク愛知」（共同代表、内河恵一弁護士ら）。無償化から除外された生徒らが2013年1月、国に慰謝料などを求めて名古屋地裁に起こした訴訟を支援し、署名活動などに協力してきた。同ネットでも活動する在日



英語の授業を受ける高級部のクラス。教師の説明は朝鮮語＝愛知県豊明市の愛知朝鮮中高級学校

3世の弁護士裴明玉さん（34）によると、提訴から2年が経つなかで、「一度、『学びの提供』という教育の原点に立ち返って、支援しよう」との意見が出たという。授業は公開し、無償化問題への市民の関心を高めることも目指す。

メンバ－の呼び掛けに、日本人の教員ら10人が賛同。中国人研究者1人も加わった。卒業が近い中・高級部の3年を除く、計7学級を分担して教える。テーマは「近代日本と東アジア」から「電気と磁石」まで幅広い。

琉球大准教授で社会学者の野入直美さん（48）は、NPO法人「アメリカジアンズクール・イン・オキナワ」の理事。米国人と日本人の間に生まれた子どもを対象に、二つの文化をありのままに受け入れられる人格形成を目指してきた。「在日以外のマイノリティーを紹介することで、問題を広く、深く考えるきっかけになれば」

名古屋北法律事務所の弁護士矢崎暁子さん（31）は、学生に違法な長時間労働などを強いる「ブラックバイト」問題を話す。「朝鮮学校の生徒の多くが、いずれは日本の職場でアルバイトを経験する。不当な扱いを受けないよう、知識を伝えたい」

愛知朝鮮学園の金伸治理事長（64）は「心ある方々の協力をありがたく思っている」と話す。公開授業は午前9時～10時40分。問い合わせは同ネット（0562・97・1815）へ。

（黄激）